

平成 30 年度 第 5 回 日野市子ども・子育て支援会議  
議事録

日 時 平成 31 年 2 月 21 日（木）午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分

場 所 日野市役所 5 階 505 会議室

出席者 委員 秋山委員、嶋田委員、赤塚委員、東委員、出浦委員、寺田委員、久富委員、三浦委員、原嶋委員、青嶋委員、小俣委員、乙訓委員、土屋委員、奥澤委員、小林委員、赤久保委員、山下委員、篠崎委員

事務局 谷子育て課長、横堀子育て課助成係長、眞砂子育て課地域青少年係長、中田保育課長、石原保育係長、堀辺子ども家庭支援センター長、正井子ども家庭支援センター課長補佐、小出子ども家庭支援センター地域支援係長、三輪子ども家庭支援センター主査、奥

欠席者 村田委員、稲田委員

傍聴者 1 名

（開会）

会長

それではちょっと遅れましたが、成立の数になっていると思いますので第5回目の今年度最後になります。事務局の方から成立かどうか、傍聴などありましたらよろしくをお願いします。

事務局

それでは事務局子育て課から出欠の状況等について報告させていただきます。本日ですけれども稲田委員、村田委員からご欠席の連絡の方をいただいております。まだお見えになっていない委員もいらっしゃいますが、すでに過半数の委員のご出席をいただいておりますのでご報告をいたします。また、本日、傍聴の希望がございますのでこれを許可したいと思います。会長の方から委員の方におはかりいただければと思います。お願いいたします。

会長

ご存知の通り、この会議は公開のものでございますから、鉄則的に特別なことがない限り傍聴を認めるということになります。希望があるということで、よろしいでしょうか。

委員

はい。

会長

それでは、よろしくをお願いします。

事務局

それでは、傍聴の方も着席となりましたので、続きまして私の方から資料の確認をさせていただきます。本日の資料ですけれども、事前にお送りしてありますものと本日机上配布させていただいたものとございますが、合わせて確認させていただきます。

- 資料1 日野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告 A4サイズの冊子になったものになります。
- 資料2 日野市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール(案) A4サイズ1枚
- 資料3 日野市緊急1歳児受入事業
- 資料4 学童クラブ民間活力の導入等に関する検討会について(経過報告)
- 最後に、本日配布させていただきました、
- 資料5 日野市子ども・子育て支援事業計画 見直しに向けた課題整理 A3サイズ1枚になります。

以上、資料の不足等、大丈夫でしょうか。何かございましたら、事務局にお声掛けください。よろしく願いいたします。

(1. 会長あいさつ)

**会長**

それでは、会議の方を始めたいと思います。次第ですと挨拶になりますが、この間やったかなと思っていたんですけど、正月が終わり、2月の中旬が過ぎたところでございまして。早くて、ちょっと年を取ると嫌ですねって感じるんですけど、それは感想方々あいさつに代えさせていただきます。また今日は、ちょっとあったかくなってきたんですけど、お忙しいところご出席いただきありがとうございます。よろしく願いします。

それでは、審議事項にさっそく入らせていただきたいと思います。それでは第1番目の日野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告等々、詳しく見ていけるのかなと思いますので、事務局の方からよろしく願いいたします。

(2. 審議事項 (1) 日野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告について)

**委託事業者**

本日も宜しく願いいたします。それでは資料1の説明の方を私の方から説明させていただきます。着座にて説明の方させていただきます。

それでは資料1でございますが、日野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書ということで非常にページ数の方もボリュームのあるものになっております。本日こちらの資料1の方の説明の方をさせていただきます、最後に机上資料になっております資料5の方でこの結果の概要という形でまとめの方をしておりますので、まとめの方でもさらに全体を総括として説明の方をさせていただきますと思いますので、資料1について順番に説明の方をさせていただきますと思います。時間の方も限られておりますので、特に区分別におもだった点を報告の方をさせていただきますと思いますので、資料の方は飛びますがよろしく願いいたします。

それでは、まず1枚めくっていただきまして目次と調査概要という形になっております。前回の会議では、高校生についての集計が取りまとまっておりましたので、本日はこちらの方の回収状況、そして集計の方を入れております。こちらの方につきましてはお目通しいただければと思います。

それでは、ホッチキスの関係でページ番号が見つらいかと思いますが、3ページ目、こちらの方から調査結果の方が入っております。まず1つ目が、就学前保護者の集計結果でございます。こちらについての主だったということで、もう1枚めくっていただきまして、問10があると思います。「子育てをする上で、気軽に相談できる人はいますか」ということで、こちらの割合見ていただきましても9割近く「いる」という回答結果でございますが、平成25年度の調査と比較すると、若干でございますがこの「いる」という割合が減少している形になっております。そして次のページをめくっていただきまして、下の方に右下に問14があります。「あなたは日常生活において孤立感を感じますか。」ということで、「強く感じる」「やや感じる」割合を足しますと、2割近くの方が孤立感を感じるという回答していただいております。そしてそのページを1枚めくっていただきまして、その「強く感じる」「やや感じる」という回答をした方ですが、「孤立感

を和らげるためにどのような施策が地域で必要だと思いますか。」ということで、最も高いのが「時には自分のための時間を持てるように、子どもを預けられる場」というところが最も高くなっております。そして、その下の方いきますと、問17ということで、「あなたのお子さんの保護者の現在の就労状況はどうなっていますか」という回答結果ですが、1番上に「フルタイム、育休ではない」そして2つ目が「フルタイム、育休中である」ということですが、こちらの方両方足しますと、それぞれ25年と比べると5ポイントずつ、合わせて10ポイント近く5年前と比べるとフルタイム家庭が増えております。そしてその下のパートタイムにつきましても5ポイント近く高くなっているというところで、15ポイント近く就労家庭というところが増えている形になっております。これらの結果がベースとなっているかと思えます。

次に行きます。資料の方めくっていただきまして、20ページ目までよろしいでしょうか。こちらの方問20ということで「母親と父親もしくは双方が育休制度を利用しましたか」ということで、母親の方が高い形になっておりますが、2つ目の選択肢「取得した」という割合ですが、44.7パーセントという形になっております。こちら前回比較グラフの方にいれておりませんが、5年前と比べると、育休の取得率が高まっているというところが出ております。

続きまして、1枚めくっていただきまして、ページ番号23ページ目でございます。23ページ目の問26でございます。「0～2歳児における子育てに対する考え方を教えてください」ということで、最も高いのが「育休制度が整っていれば、在宅で子育てをしたい」という回答結果でございます。非常に保育サービス等が高まりがみせているわけでございますが、0～2歳児における子育てに対する考え方というところにつきましても、育休制度が整っていれば基本的には在宅で子育てをしたいという方が4割近くおみえになるというような形でございます。そしてその右の方見ていただきまして、問27でございます。「定期的な教育・保育の利用状況」ということです。利用しているという割合が70.6パーセントという形でございますが、こちらは前回の調査結果と比べると7ポイント近く高まっております。先ほどの、就労状況の高まりからこちらやはり、定期的な教育・保育の利用状況も高まりをみせているという結果でございます。

そしてその下の問28でございますが、その内訳というところでございます。こちらの方、非常に選択肢が長くなってきておりますが、3つ目の「認可保育所」こちらが最も高い形になっております。こちらが54.4パーセントということで、前回の調査結果と比べると、6ポイント近く増加しているという形でございます。逆に幼稚園の方につきましても、7ポイント近く減少しているというところに結果の方が出ております。

そして、少し資料の方飛びます。ページ番号32ページ目の問33をご覧くださいませでしょうか。こちらの方につきましても、教育、保育の利用状況から今度は利用希望というところの設問でございます。「すべての方に伺います。現在利用している、利用していないに関わらず教育・保育のニーズにつきましてもどのようなサービスを利用したいですか」という設問でございます。こちらの方につきましても、3つ目の「認可保育所」こちらの方が58.1パーセントということで、前回の調査結果と比べると10ポイント近く高くなっているというところがございます。この設問につきましても、それぞれ年齢別に回答結果の方が出ておりますので、一概にこのままニーズになっているものではございませんが、認可保育所の部分の高まりがみせているという結果でございます。

そして資料の方飛びます。少し飛ぶ形となりますが、61ページ目の方をご覧くださいませでしょうか。問57ということで、日野市の子育て支援策についてということで、「日野市の子育て支援策として、今後力をいれていくべきものは何だと思いますか」ということで、最も高いのが「公園などの遊び場の整備」ということで、75.9パーセント。前回の調査結果と比べても非常に高まりを見せているというところがわかるかと思えます。

続きまして、64ページ目から小学生の保護者の設問になっております。こちらの方につきましても抜粋して説明させていただきます。資料68ページ目をご覧くださいませでしょうか。問9で「あなたは日常生活において孤立感を感じますか」ということで、「強く感じる」「やや感じる」という割合が17パーセント近くあります。こちらの方につきましても、未就学の方が20パーセン

ト近くありますので、若干低い感じで出ております。この「強く感じる」「やや感じる」と回答した結果が次の69ページ目の方で、問10の方ではその方々が「どのようなことが地域であれば孤立感を和らげることが出来ますか」ということで、最も高いのが「本音で子育てについて話ができる人」というところを求めているということで、未就学の調査結果と若干違いがでていうところがございます。

そして次の1枚めくっていただきまして、71ページ目でございます。問13。こちらについては小学校の保護者の方の就労状況という形でございます。こちらについても、フルタイムの家庭が6ポイント近く、そしてパートタイムの家庭が10ポイント近く高まりを見せています。合わせて16ポイント近くの就労状況の類型が変わってきているという形でございます。

そして、資料が少し飛びます。93ページ目を見ていただけますでしょうか。問23「小学校の放課後の過ごし方」1年生～3年生に対しての放課後の過ごし方についての希望でございます。こちらの方は最も高いのは「習い事」であったり「自宅」等があるわけでございますが、今回の事業計画の方で検討します、「放課後子ども教室「ひのっち」」につきましては3割強、そして「学童クラブ」につきましても2割強のニーズが出ております。

そして次の1枚めくっていただきまして、97ページ目でございます。あわせて小学生の4年生～6年生のニーズでございます。こちらにつきましては、先ほどの「放課後子ども教室「ひのっち」」同様に3割、「学童クラブ」につきましては若干下がっておりまして7.6パーセント。一方で「児童館」というところが2割強というところで、ニーズの高まりがみせております。

続きまして、資料の方飛びます。108ページ目の方ご覧いただけますでしょうか。問36で「市の子育て支援策として今後力を入れておくべきものは何だと思えますか」ということで、就学前と同様に「公園など遊び場の整備」ということが非常に高い状況、7割弱というところから出ております。次いでということで「児童手当・医療費・保育料・教育費など子育て費用の助成」というところが次いで高まりをみせていることで、小学生の方につきまして若干違いの方が出ております。

続きまして、111ページ目から中学生の調査結果でございます。こちらの方については、114ページ目、次のページをみていただけますでしょうか。問3で「自分のことが好きである」こちらが「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」を足すと6割程度。そして1枚めくっていただきまして、「人前で自分の意見をきちんといえる」こちらの方についても、「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」が7割近く。そして「自分に自信がなくなる時がある」こちらについても「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」が合わせて7割近くになっております。特にこの「人前で自分の意見をきちんといえる」そして「自分に自信がなくなる時がある」こちらについては「とてもあてはまる」割合が5年前と比べると非常に高まりをみせているというところが分かるかと思えます。

そして1枚めくっていただきまして、119ページ目の方では学校や友人についての内容が入っております。特に右の問14見ていただきますと、アが「自分の気持ちをわかってくれる友達がいる」こちらが「たくさんいる」「まあまあいる」が8割。そしてイの「自分を友達に理解してもらおうと努力している」こちらが「している」と「少ししている」が合わせて7割。そしてウの「誰とでも仲良くなれる」がこちらが合わせて7割。そしてエの「自分はクラスにとけ込んでいる」こちらが合わせて8割ということで、だいたいあてはまる方、まあまあいる方、こういったところが非常に7割、8割ということで出ているわけでございますが、この一番最も高いところのたくさんいる、している、とてもあてはまる、とてもとけ込んでいる、ここの選択肢をみていただきますと、5年前と比べると減少しているところがひとつ着眼しておかないといけないところではないかなと思えます。

そして資料少し飛びます。133ページ目の方を見ていただけますでしょうか。問37「近所の人とあいさつをしていますか」ということで、こちら「自分からあいさつをする」という割合でございますが5年前の62パーセントから52.6パーセントということで減少の方しております。

さらに1枚めくっていただきまして、問40。「放課後、休日、夏休みなどにボランティアをし

たことがありますか」ということで「ある」という割合、こちらにつきましても5年前と比べると減少しているというところが出ております。

そして、1枚めくっていただきまして、高校生の調査結果の方が出ております。こちらの方も問2で特徴の方がでてきているかと思えます。「早寝早起きをする」そして「朝食をとる」そして「あいさつ・お礼をする」「物を大切に使う」「お手伝いをする」「約束を守る」という回答結果でございますが、「できている」「だいたいできている」というところを見ていただきますと、「早寝早起きをする」以外につきましても、非常に高い形で数値の方も出ておりますし、5年前の調査結果と比べても非常に高い数字がでていないかなと思えます。

さらに1枚次のページにいていただきまして、142ページ目の問3を見ていただきますと、「自分のことが好きである」「人前で自分の意見をきちんと言え」とこちらの方につきましても、「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」を足すと7割から8割というところがありますが、こちら5年前の調査結果と比べると、非常に高まりを見せている形でございます。

一方で、146ページ目の方見ていただけますでしょうか。問11「学校は毎日楽しいですか」という結果でございますが、こちらが「とても楽しい」という回答結果が前回49.3パーセントに対して今回39.5パーセント。

さらに1枚めくっていただきまして、147ページ目の問14。「あなたと学校・クラス・友達との距離について伺います」ということで、右側にあります「今のクラスは好きだ」「学校に行くことが楽しみだ」「今の学校は好きだ」というところの回答結果でございますが、「とても好き」という回答結果が5年前と比べると減少しているというところがわかります。

続きまして、156ページ目を見ていただけますでしょうか。問29でございます。「職業のイメージについて伺う」ということでございますが、「イメージをぼんやりとでも思い描くことができますか」という回答結果「できる」という回答結果が7割近くありますが、こちらにつきましても5年前の調査結果と比べると減少しているというところがあります。

そしてそのまま下の方いていただきまして、問31があるかと思えます。「家族のあり方について聞きます」ということで、「結婚についてどう思いますか」という回答結果でございますが、真ん中あたりにあります「どちらでもいいと思う」さらには「無理にする必要はない」という回答結果が5年前と比べると増加しているところが目立つところかと思えます。

そして、1枚めくっていただきまして、161ページ目の問35でございます。「近所の人とあいさつしますか」という回答結果、こちら高校生につきましても「自分からあいさつをする」という割合が5年前の調査結果と比べると減少しております。一方で162ページ目の問38見ていただきますと、「放課後、休日、夏休みなどにボランティアをしたことがありますか」という回答結果の「ある」という割合につきましても、5年前の調査結果と比べると20ポイント近く増加しているというところも特徴かと思えます。

そして資料飛びます。166ページ目からは18歳～30歳代までの調査結果でございます。こちらの方については、171ページ目問15を見ていただけますでしょうか。この前の設問の方で「現在夫婦ともに働いている」であったり「結婚したら夫婦ともに働くつもりである」という回答結果を選んだ方でございますが、保育所であったり託児所といったところに預けるという回答結果、「働いている間子どもの世話をどうしたいとお考えですか」というところで、こちらの方が最も高く、さらに5年前と比べても非常に高いという結果が出ております。さらにその右横の問17「女性が結婚や出産後も仕事を続けていく上で必要な条件はなんだと思いますか」ということで、最も高いのが「子育て期に多様・柔軟な働き方が選択できるよう制度等を見直す」というところが非常に4割近くということで高くなっております。

そして1枚めくっていただきまして、176ページ目の方で問23ということで、「最近の子育て中の家庭について、あてはまると思うことは何ですか」ということで、最も高いのが「親自身の日常生活にゆとりがない」という結果、こちらが51パーセントということで非常に高いという結果が出ております。

そして、次の177ページ目からは子育て関連事業者・団体についての調査結果でございます。

こちらの方につきましては、1枚めくっていただきましてさらに181ページ目の問8を見ていただけますでしょうか。昨今非常に話題になっております児童虐待についてですが、「虐待の原因は何だと思いますか」ということで、最も高くさらに前回比較からも高くなっている部分「親の成育歴による世代間連鎖」さらには「親が未熟で自分の感情を抑えられないから」というところが非常に増加しているところでございます。そしてその横の問9では「児童虐待を防止するためにはどのような取り組みが必要だと思いますか」ということで、「母親の育児不安への早期対応、カウンセリング、治療の実施」というところが47.9パーセントということで前回の調査結果と比べても非常に高まりがみせております。そして、ページのほう2枚めくっていただきまして、右側の問16「日々の事業や活動を通して保護者の方と接する中で、保護者の方々が子育てをするにあたって地域に求めている事はなんですか」ということで、「子どもが自由にのびのびと遊べる場所がほしい」という回答結果が77.1パーセントということで非常に高い割合が示されております。

そして次の1枚めくっていただきまして、企業についての調査結果でございます。こちらの方につきましては194ページ目の問7「子育て世代が働きやすい職場作りの実態や今後の意向について」ということで、まずこちらの194ページ目では現在取り組んでいる事ということで、「短時間勤務制度の実施」ということで54.5パーセントということで前回と比べても非常に高い結果が出ております。そしてその次をめくっていただきまして「今後取り組みたいと思っていること」ということで、割合的には大きな差はありませんが、最も高いのが「有給休暇の取得促進」というところの結果でございます。

そして198ページ目から最後になります。小学生本人でございます。こちらの方につきましてはそれぞれ過ごしている場所等々設問の方がありますが、着眼しておかなければいけないのが202ページ目の問6。「あなたは、ふだん悩み事を誰に相談しますか」ということで、「親」の36.1パーセントが最も高くなっていますが、「誰にも相談しない」というところも17パーセントで2割弱というところの数値が出ております。それでは、まず資料1の説明の方を終わらせていただきます。あわせて同様の結果になりますが、もう一度資料5の方で総括しておりますのでそちらの方の説明の方をさせていただいて、説明の方を終了させていただきたいと思います。

資料5の方では、まず左上の方にありますアンケート調査からみられる市民ニーズ、現状というところで整理の方をしております。そしてこれらの現状を受けて、右側にあります計画の見直しに向けた課題整理という形でしております。こちらの方を見て、再度200ページあるアンケート結果の方を確認の方をしたいと思います。

まず(1)未就学児童・小学生の保護者の関係があります。まず、子育て環境や子育て支援の現状というところでございますが、未就学児童の方では「相談相手がいる」という割合が前回調査と比べ、減少しております。さらに日常生活において孤立感を感じる方が2割近くおみえになります。そしてこの孤立感を感じる方は「時には自分のための時間を持てるように、子どもを預けられる場」を求めているという結果がありました。そして小学生の保護者の方でいきますと、下の方になります孤立感を感じる方、この方々が求めているものは「本音で子育てについて話ができる人」というところを求めている結果かと思えます。そして大きな丸でございます。保護者の就労状況ということで、まず未就学児童の保護者につきましては、こちらでは「フルタイム家庭」というところが、前回の調査結果と比べて非常に増加しております。そして小学生の方に行きますと「フルタイム」にあわせてさらに「パートタイム」、こちらの方につきましても前回調査と比べて増加している状況でございます。そして次の3つ目の丸でございます。「教育・保育事業の利用状況について」ということで、先ほど就労状況からも教育・保育の事業を利用しているという割合が高まりをみせていたわけでございますが、3つ目のマルチョボでございます、0～2歳児における子育てに対する考え方で、「育児休業制度が整っていれば、在宅で子育てしたい」というご意見が多かったところがあります。そして1つ飛んで「小学校の放課後の過ごし方について」というところでございますが、低学年・高学年ともに「ひのっち」そして「学童クラブ」そして「児童館」こういったところでの放課後の過ごし方を求めているという結果がでております。そ

して、最後になります。「日野市の子育て支援策について」ということで、未就学・小学生ともに「公園などの遊び場の整備」を求めている。さらには子どもを育てる環境として重視していることとしては、「安全に生活できるまち」というところが最も高い結果が出ておりました。

そして右上にいきます。(2)小学生・中学生本人ということ、「あなたのことについて」というところで見えますと、小学生の方については普段悩み事を「だれにも相談しない」という回答結果が2割弱といったところがございます。そして中学生の方になりますと、自分のことが好きである、さらには自分の意見をきちんと言える、さらには自分に自信がなくなる時があるといったところが、7割6割といった結果が出ております。そして今の生活について満足している方といったところが前回調査と比べると減少していると結果が出ておりました。そして、学校や友人についてというところで、こちらの方は中学生の結果でございます。「自分の気持ちをわかってくれる友達がいる」が増加している一方で、「たくさんいる」という結果につきましては減少しているということがありました。そしてその大きな丸でございますが、社会環境についてということで、近所の人とあいさつをするかについては「自分からあいさつをする」という割合が前回調査と比べると減少しておりました。さらにはボランティア経験についても前回調査と比べると減少している結果が出ておりました。

そしてその下の方では、高校生の本人ということ、中学生の調査設問とかなり似ているところがございます。「あなたのことについて」ということで、こちらの方につきましては早寝早起き以外については、朝食をとる、あいさつをする、物を大切に等々、多くの面で「できている」という回答結果が高く、さらに前回調査と比べても増加の方しておりました。さらには自分のことであることについて、自分のことが好き、人前で自分の意見を言える等々で「とてもあてはまる」という割合が前回調査と比べても増加しているという結果が出ておりました。そして、学校や友人についてというところがございますが、学校は毎日楽しいかについて「おおむね楽しい」という割合「とても楽しい」という割合、こちらが前回調査と比べると減少の方しておりました。そして、学校・クラス・友達との距離についても、今のクラスが好きだ、学校に行くことが楽しみだ、今の学校が好きだというところで、「とても好き」「楽しみ」というところが前回調査と比べると、減少しています。そして次のあなたの将来については、将来職業のイメージをぼんやりできるかという割合が7割ありましたが、前回調査と比べると減少しております。そして結婚についても「どちらでもいいと思う」「無理にする必要はない」という結果が、前回調査と比べると増加しております。そして、社会環境につきましては近所の人とあいさつをするか、こちらは中学生同様に前回調査と比べると減少の方しておりますが、夏休みのボランティアの経験、こちらについては「ある」という割合が増加の方でございます。そして(4)18歳から30歳までということ、結婚・出産について、こちらの方で女性が働き続けるための条件ということ「子育て期に多様・柔軟な働き方が選べるような制度」というところ。さらには働いている間、子どもの世話をどうしたいかについては「保育所や託児所に預ける」というところが高く、前回調査と比べても高い結果が出ておりました。そして最近の子育て中の家庭について、「親自身に日常生活のとりがたい」というところが最も高い結果だったかと思えます。

そしてその下にいきまして、子育て関連事業者・団体というところ、2つ目に児童虐待といった問題が、「親の成育歴」そして「親が未熟である」といったところで、感情を抑えられないといったところが最も高く、さらには児童虐待の防止については、「日常的な育児相談機能の強化」さらには「母親の育児不安への早期対策、カウンセリング、治療の実施」が求められている結果だったと思えます。

そしてその下にいきます。(6)企業ということ、こちらについては今後取り組みたいと思っていることについては、「有給休暇の取得」が高くなっております。

これらの現状の方から、計画見直しに向けた課題ということ、アンケートから見られる課題として大きなくくりとしては上の方が、養育環境からみられる現状と課題というところがございます。家庭類型の変化がみられております。未就学児童の保護者においてはフルタイムで働く母

親が増加している、小学生の保護者においてはフルタイム及びパートタイムで働く母親が増加しているというところがあります。そして子育ての孤立化、相談相手のいない母親が顕在化しているのではないかと思います。そして子育てについて子どもの発達・発育に対する悩みが不安の増大につながっている可能性があるのではないかと思います。そして、教育・保育に対するニーズの変化、保育ニーズの高まりがみられるのではないかなと思います。一方では、0～2歳児においては育休制度が整っていれば、本来は在宅で子育てをしたいと思っているというところがあります。そして、小学生の放課後の過ごし方については、放課後子ども教室「ひのっち」、学童クラブ、児童館のニーズが高く、年代によるニーズの違いがみられる状況かと思えます。そして公園などの遊び場の整備が求められ、かつ、まち全体が、安全に生活できること、子どもたちを育てる環境として求められているのではないかと思います。

そして、子どもの育ちからみる現状と課題ということで、中学生本人調査から、学校や友人については若干変化がみられ、友人関係で悩んでいるということがみられます。そして地域とのつながりについても若干課題がみられるところ。前回調査と比べると、子どもをもつこと、結婚すること、働くことなど、将来に対するイメージがぼんやりしていることがうかがわれるのではないかなと思います。

そういったところから、課題ということで「在宅での子育て支援」そして「放課後対策」そして「子どもの体験活動・社会参加促進」こういったところがひとつアンケート調査からみられる課題として浮かび上がってくるかと思われまます。以上で説明の方を終わります。

#### 会長

はい、ありがとうございました。うまい資料、わかりやすく回答していただき、またまとめていただいたかと思えます。これにつきまして、質問はございますでしょうか。

#### 委員

すみません、遅れてきて申し訳ございません。ざっとアンケート結果を見させていただきながら聞いて、かなりショックだったことが2点、それについての見方や見解がいろいろあると思うので、議論するべき点だろうというのが2点ありまして、お話しさせていただきます。1つが、中学生・高校生に聞いている「自分のことが好きか」どうかという部分で、設問が連なっていて、自分のことが好きですか、自分のことを大切にしていますか、次はあなたは他の人を大切にしますかか連なってますよね。高校生の方が、回答率が高かったはずなんですけど、高校生の方がまず自分を大切にしている割合が低いということ。それと、どちらも圧倒的に他人の人を大切にしていますかというのがものすごく高いのに、自分のことを大切にしているというのが6割は、私はこれはすごく低いと思いました。それはなにに比べているかということ、他の人を大切にしていますかという設問に対して。どちらも大切に決まってるじゃないですか。自分のことも、他人のことも。どちらも大切に決まってるのに、自分のことはそうでもないけど、他人のことは大切だという意識が、今の日本は高いということの現れですよ、これは。それは、別に学校だけでなく家庭内でもなんでも、思わず人のことを大切にしなさいということを手軽に言いますが、いかに自分が大事だって思えるような社会環境をつくれていないという表れなんじゃないかと思って、私はこういう活動に関わったり、いろいろほかでもPTAでも活動に関わってますけど、こういうことをやっている一人として残念でしたし、自分自身のことを見直さなければいけないぐらい、これを重く受け止めるべきなんじゃないかという風に思いながら見ていました。このままでは、本当にいけないなど。自尊感情が低いとか自己肯定感が低いといわれていることが、こういったところに如実に表れているかなと。これを高いと見るか低いと見るかいろいろあるかと思えますけれども、私はそれぐらいこれは危機感をもって見るべきデータなのかなと思いついていました。それが1点目です。もう1つが今私がちょうど入ってきたときに聞けたんですけれどもこちらの資料の181ページの「児童虐待が大きな問題となっています、その原因は何だと思いますか」こちらでもまとめていただけてますが、関係団体に聞いたときに「親の育成歴」が関わる、

これはいろんな負の連鎖があるという話からそうだと思いますが、親が未熟で自分の感情を抑えられないというのが一番高いというのも、ものすごくショックです。要は、個人の責任だということですから子育て関連者の多くは思っているということですね。社会環境の問題ではなく。そういう虐待をするような環境に、もちろん被害者である子どもは本当にかわいそうですし、親は罪を犯したことは罰せられなければいけないですけども、そういう罪を犯してしまうことに親を追い詰めたことは一体何なんだろうといったところに思いを馳せずしてこういう問題は絶対になくならないと思います。一番やってはいけないのはその人個人の責任にすることだと思っていますので、周りが自分は関係ないと思っているというところですね。しかも子育て関係者がそう思っている。それとこの資料のもう1つ残念なことは、地域の間関係の希薄化が問題である割合が、前回の質問から大きくこれが下がっていますよね。要は、地域の問題ではないですよ。地域のつながりがなくなってきた、孤立化されているみたいなところと如実に結びつくはずなのに、あまり子育て関連者はそこにあまり興味関心がないということもとてもショックです。なので、これももちろんいろんな意見があると思いますので、議論の必要があると思いますが、虐待は私は親が未熟で自分の感情を抑えられないが一番の原因とは全く思っていないので、そういうことをベースにした計画を作っていくこととならないようにぜひしたいなと思いつつ、これを読ませていただきました。以上です。

#### 会長

はい、かなり大きな問題がありどう扱ったらいいか迷うところですが、いずれにしてもそういう委員としてのニーズがあるわけですから、今質問者の方がお話ししてましたけど、いろいろな考え方がある。こういうことがあるわけですから、中々大きな問題でまとめきれませんが。今一番私がぱっとひらめいたことは、親の責任というのと、虐待ですよね。個人に還元するというのは何が言いたいかわかるような感じがしますが。それからちょっと少しばかり時間をいただきましょうか。ちょっと、こうじゃないかってご意見があれば、委員の方からお伺いしたいと思います。

#### 委員

中学生と高校生の質問の項目のところ、好きだっていうところだけ見るんじゃなくて、人を大切にすることと自分を大切にすることに大きな開きがあるんだなと、ものすごく違和感を感じました。

私は思わず好きかって言いましたけど、設問は好きじゃなくて、自分を大切にしていますかってなってますね。好きかどうかで確かに、思春期に自分のことが嫌いになるってありますよね。そうじゃなくて、大切にしていますかって設問で、両方とも。これ設問の仕方がとてもいいと思います。高校生が160ページで、中学生が132ページです。

#### 委員

今委員が言ったことで、私が感じた事を2点申し上げるとしたら、まず1点目が自分を大切にということについてなんですけど、これについては結構深いと思うんですよ。日本の昔から行ってきた教育の中で、やっぱり人に対する思いやりとか道徳の中でも、その対人的なものが結構結果に見えるし、そういういった教育を日本はずっとやってきたのかなという自分の反省も含めて、それはやっぱり感じますね。それこそ自己犠牲にしても、人のためにとかそういう教育をやってきたのかなという感じがするので、今改めて学校でも自己肯定感とか自尊心を高めるということについてはやっていかなければいけないし、学校でやるということはすべて学校に預けるわけではなくて、家庭でも地域でも世の中全体としてやっぱりそれは進めていくものだろうと思うんですね。ですからそういう呼びかけをこれからしていく必要があるかなと、私も委員と同じようにそれは感じました。もう1点虐待についてなんですけど、これについても今すごく千葉県のことでも出てますけど、あれ見てて寂しくなるんですね。というのは、報道がすべて責任は誰

なんだと、責任転嫁の話にばかりにいつちゃうんですね。だからそうじゃないんだろうなと僕も実は思うんです。で、虐待に走ってしまう、実は私もいろんな事例を今までも自分の職業的に扱ってきましたけれども、やっぱり子どもに対してのしつこく、しつこくという言葉ははっきり言って後からでてきてるんであって、やっぱり保護者自身が孤立感だとか孤独感ですとか、不安感それを持っていて、それをぶつける場がない。ぶつける場がないから、結局弱いところ身近なところで、目の前の子どもが大きな声を出したらそれが気になっちゃう。ですからこのアンケートの結果、非常に貴重だと思うんですね。保護者が孤立感を持っている、孤独感を持っているといったあたりをやっぱりそれは私たちが受け止めて、どうしていったらいいのかなって。私も校長をやりながら自分の学校の保護者がそうやって感じているんだろうなって、実はそう思っていました。数字見る前から。だからそれをどう解消していったらいいのかなって、今後課題にしていきたいと思うし、これは社会全体で考えていくべきではないかなって思うんです。もうちょっと付け足すと、その孤立感を減らすためには、相談事をできる人がいないとか、相談する人がほしいと言ってますよね。困ったときの相談、できるものじゃないんですよ。やっぱり、普段から世間話をしたりとか、そういった人がいるから、実はねって困った話ができるんであって、自分が困っているときにいきなり行くって、これはなかなか行きにくいと思うんです。ですから、普段から保護者同士が密接につながる関係づくりを、どうやってつくっていったらいいのか、そこにやっぱり目を向けて行って、その中でじゃあ悩み事も相談しましょうよって感じでいけばいいのかなって。そうやって思いながら聞いておりました。

#### 会長

ありがとうございます。もう方策を語っていただいたというところがありますが、今までのお話を含めてどうですか。

#### 委員

私も遅れてきてすべて聞けていないんですけども、今の話に付随しまして地域の中でというところで、やはり民生委員がですね、小さいお子さんだとかお母さん達に日ごろから話しかけたり、関係を作ってあればなにか相談してもらえるのかなって部分を、すごく大きく感じているところなんですけれども、先日起きた千葉の件もそうですけれども、誰かに相談できなかったのかなというのがすごく残念で、救えた命だよなって思うとすごくやりきれない感じになっちゃうんですけれども。やっぱりその部分で、地域が希薄化しているといいますけれども、でもやはりそれぞれ民生委員も地域の中でできる範囲は交流をやっているわけで、そこから救いがいいかなというところで、民生委員としても考えていきたい。ただこの相談する、誰に相談しますかという中で出てきたと思うんですけれども、その中では民生委員は1人か2人くらいしかいなかったんですね。でも、関係機関がすごく認知されて、別に私たちを飛び越してでも関係機関などに電話などしてくれればそれでいいわけですし、私たちもつなぐのが仕事なのでそれでもよいかと思ったんですけども、やっぱり認知的にはまだまだだとなるところはあるんですが。とにかくどこかに相談してほしいというのが強く思うところです。

#### 会長

はい。民生委員のご経験からお話いただいたわけですが。他にどうですか。

#### 委員

はい、よろしいですか。虐待の関係になるんですけれども、子ども部については対応していく窓口がございますので、それに関連しての私の意見ですけれども。先ほど委員からお話があった通り、個人の問題というところについては私も少し引っかかっています。もちろん、現実的にそういう虐待が今行われてたものについては、確実に対応していかなければいけないですけども、やはり考えていくと今盛んに出ていますけれど、子育ての孤立化だとか、地域の中での相談相手

がないこと、これはやはり大きな問題だと思いますね。ということは、その時点での対応ではなくて、実際に妊婦さんの段階からやはり関わりを持つということが必要なのかなど。それを継続的に見ていくということが、やはりこの虐待につながらないという、子育てがちゃんと安心してできるというところにつなげていかなければいけないのかなと思いますので、そういう窓口が今後必要になってくるんだろうなど。今も確かに窓口はそれぞれありますけれども、やはり連続した継続的な関わりがないですからそこを構築していく必要があるのかなと強く思います。

**会長**

行政の立場としてありがとうございました。他にありますか。

**委員**

この未就学児の方のデータを先ほど説明いただいて、気軽におしゃべりできる人が未就学児の親でない、小学生の親の方が本音で語れる仲間がない、そこが孤立感の理由だと思うんですけども、そこは未就学児の時にそういう風に思っていた人が、子どもが大きくなって行ってそういう風になっていったんだなって感じがしたんですよ。それをほどいていくと、未就学児段階で気軽におしゃべりできる人がたくさんできるような状態が作れば、小学生の親を感じる本音で語れる人というのが少しカバーされるんじゃないかなという風に思うんですね。今ご意見を聞いたりして感じるのは、地域の中でなにが解決できるんだろうと話が煮詰まっちゃうところもあって。結局気軽におしゃべりできないのはなんでだろうと、ぎりぎりまで生まれる直前まで働いてるからだと、生まれて少しするとすぐ働くからだってことになるわけで、地域の中にいないからっていうのがあるのではないかなと思うんですね。そうすると働く方が変えなければいけないということになり、話がどんどん大きくなって行って解決の糸口がみえない感じだと思います。過去のこととか、いろいろ思い返すと僕の住んでいたところの近くではいわゆる「おせっかいなおばちゃん」がいたんですよ。なにかにつけて、ちょっと多く買ったからと魚くれたりだとか、割とそういうのが残っていたんですよ。そういう人が近くにいてちょっとおせっかいなことをしてくれると、半分軽口をたたかれますけど、結果的にうれしいことになっていたというのが結構多いかなと思うんですよ。それがぱっと出てきたひらめきですけど。例えば妊婦さんのお家があって、その人がぎりぎりまで夜まで働いて帰ってこない。うれしいかどうかわからないけど、おせっかいな人がメモとか残して気にしているアピールをしてくれてるとか、そういうところからすれ違ったときにコミュニケーションが生まれるとか、そういうのがあると思うんですけども。その地域の中で働いている人、活躍してくれる人はだいたい日が沈むまでが活動時間で、実際当事者たちが日が沈んだ頃に地域に戻ってきて、そういうところに掛け違いがあるみたいなどころがあるんじゃないかなとお話を聞いて感じました。

**会長**

はい、ありがとうございます。他にどうですか。

**委員**

そうですね、子育ての孤立化って話がでてましたけど、ネットの影響がすごくあるなど実際自分が子育てしていて感じていて。そもそも本音で話せる相手を自分の地域に求めていないみたいな。SNSとかで全然同じ価値観でどんどんつながっていくし、そういう人同士で話したりもするので、普段のママ友には話せないようなことも、SNS、FacebookとかInstagramとかblogとかそういう場で自分の考えを発信して、どんどん共感してくれる人が集まってきたりするので、結構それで自分の悩みだとか共感してもらえとかコミュニティが実際あったりするので、別に困ってないんですよ。そして、ママ友コミュニティとかから浮いてるとか、別にそこで居場所がなくても自分は別のところに居場所がある感覚になっているので、そもそも地域にそういう場所を作らなければならぬみたいな考えがもうないです。どんどん全国でつながっているんですよ、

インスタとかで、同じような考え方で子育てをしている人とか。構造が、私たち30代世代は、SNSでどんどんつながって、全然孤独感がないんですよ。

#### 会長

一方で孤独感を感じている人も出てきているわけで。その辺で、感じていない人はそれなんですけど、問題が起こってくるのは、ここでは今はそういったコミュニケーションがない中で生まれてしまう、そういったところに視点があたっているのではないのでしょうか。

#### 委員

ネットのおかげでストレス発散できて、すごいそれで助かっているってあるならすごいいと思います。それでストレス発散できている人は、で、ネットが出回って虐待とか、そういうものが減っているかという残念ながら減っていないですよ。増えている面がありますよね。だからネットのおかげですべての人が助けられているわけじゃないかと思えますね。ネットでストレス発散できた、よかったとか、また頑張ろうっていいと思うんです。道具だからそうやって使えばいいと思うんですけど。残念ながら、悲しい事件とか苦しんでいる人が減っていないということで、ネットがあるから解決しているねという風にならないかなと、世の中全体的にはですね。

#### 委員

難しいなって思うところはですね、僕もそういう世代ですからSNS大好きなんですよね。Facebookもやるし、Instagramもやるし、Twitterもうつしみたいな、そういう感じで使っているんですけども。結構いろいろな人からコメントも来たりするので、それはそれで楽しいですよ。子育てとかという感覚は、僕は子どもがいないんですけども、いざ際どい話になってきたときとか、それは子どもに関係していない話でも、際どい質問だったりとか、細かい決断を迫るときとかになると、意外とコメントって入ってこなかったりするんですよ。盛り上がっていたものがパタッと止まったりとか、それに関してはみんな関心ないのねみたいな感じになったりとか。そういう風にして、いざというときの背中をぐっと押してもらうところに関しては、あんまりネットが頼れないところもあったりして。たわいもないことはすごく盛り上がるんですけども。そういう一面もあったりして、顔が見えないところの自分たちが背中を押したという責任を取りたくないからネットでもコメントしないんでしょうね。まあ難しいなと。子どもの場合は、全部最終的には頼る先が地域の中しかないんじゃないですか。子どもの物体そのものを助けられるというのは、顔が見える自治体の中でしかできないわけで。そうすると結局地域に頼らざるを得ないという結末だと思うんですけども。そこは難しいなと思えますね。

#### 委員

ちょっといいですか。今の話、本当に学校現場の中だけでもありますね。要するに、世の中が今、層ができていると思うんですよ。人間同士、face to faceで付き合っている昔からの。そこに対して今度はばーちゃんの、ばーちゃんまでいかないまでもSNSであったり、そういうのを使ったりする世代がいる。あるいは、もっと上もあるかもしれません。そういう層ができちゃってるんですよ。その層の中で自分はどこに居るかっていうことになると思うんですよ。そういう中で、また別の縛りも入ってきているのね。これから先、解決していくかというとは実は私不安じゃないんですけど。これが極端に出てきたのが、個人情報保護法ですね。個人情報という言葉ができたあたりから、これはやばいぞって私も思い始めたんです。先ほど、児童民生委員さんが、なかなか入れないとかいろいろありますよって、必ずぶつかりますもんね。個人を大事にしない、大事にしないって情報は得られない。民生委員さんもなかなか行ったら会えませんもんね。

#### 委員

私たちはそうなんです。ピンポンはいきなりしてはいけないことになっていますので。

#### 委員

そうですね。だからいろんな層の中であって、実際に事件起きてるなっていうのは、一番下の層なんですよね。だけど、人がつながっているのは上の層、別の層なんですよね。それを一緒にくたにしようとするのがちやごちやになっちゃうと思うんですよね。だからそこはやっぱり整理して、もともとやっぱり人間同士だから下の層を大事にしよう。手段の一つとしていろいろ使うのはいいけれど、っていうところでどこか基準を決めないと先に進めないような気がしますね。

#### 会長

そうですね。時間もあってからそろそろ戻りたいと思いますけれども。今お話しがあったように問題があるといった人々のことを一番に。虐待ということになるような状況にある人たちのためになにか施策をうたなければいけないですね。

#### 委員

そう思いますね。目の前の子ども、目の前の近所の保護者ですね。

#### 委員

ちょっと話が飛躍するかもしれないんですけども、中高校生の方に出てた、あいさつ、声をかけない人が多いという話ですけども、ある意味保護者予備軍みたいな子どもたちですよ。それはなんだろうなと思ったときに、ある意味で言うと学校とかで一生懸命教育していた、知らない人には声をかけないようにしようっていうのが、成熟していったらなっていくと感じるんですよ。これは、セーフティということが重要なコンセプトだったんだけど、その副作用がもしかしたらこういうところであって、必ず両方にメリットデメリットがあるんですけど。例えばさっきの話の、face to faceの心地よさがこういう解決の糸口だと考えるんだとすると、この副作用は結構重大な副作用となっていると思うんです。だから、それが結果的にボランティアしないとかにつながってくると思うし、中学生や高校生の自尊心の低さというところのマイナスのポイントと、パッと見て表面ですけど、ボランティアをしないといっている人たちのダウンしているポイントって大体同じくらいなんです。だから結局、小中学生の生きている世界も、自分が住んでいる中学校区の中でしか生きていないので基本的に。彼らが親と先生以外の人から何かを認められるっていうプロセスを得るには、今ボランティアぐらいしかないと思うんです。ほかの人と出会うって機会が。で、お前いいやつだなんて言われて、よしよしと思ったりすると思うんですけど。そういう機会がボランティアをしないとたぶん生まれない。それで人に声をかけられても、無視しようってなると、もはや誰と話すんでしょって感じになるっていうのがひとつ中高生に対しての社会参加って書いてあるんですけど、その辺の課題意識なのかなって感じています。

#### 会長

だいぶ深まって、施策を打つのにヒントになるようなお話だと思うんですけども。自分と他者との関係。私は確かにかつての15年戦争下の、それ以前の明治憲法下の中でそういった教育を受けましてね。しかしながら、私はちょっと一方で自分勝手というか、自分さえ良ければいいと、そういう側面もあると思うんですよ。大学生をみても、人のことは関係しないみたいな。そういうことで両方の目、私はいつも言うんですけど、自分を大事にすることは1番大事だけれども、自分を大事にされたかったら人を大事にしなきゃ、大事にしてもらえないよと。そういう言い方をしているわけですね。だから女子学生ですが、ボーイフレンドを好きだ好きだと言って、一方的に好きだっただけじゃなくて、そのためにはしてあげなければ改善はないよと。自分が大事だったら人のことも大事にしなきゃ。学生が出ていくときには私は、自分を大事にしなさいと

いう話をしますけれども。自分が大事だったら人を大事にする、人を大事にしなかったら自分も大事にされない。

#### 委員

自分の権利の極端な主張傾向が年々強くなる一方で、ひとりひとりが自分の気持ちだとかを大事にしていない傾向も年々強まっているというよくわからない状況ですよね。おっしゃる通りですよ。

#### 会長

ちょっと言い過ぎたところもあるかもしれませんが、他にぜひということがあれば。どうぞ。

#### 委員

自分を大切にすって本当に深いと思っていて、高校生が自分を大切にできるとか、他人のことを大事にしろって、むしろ当然というか。今やっとな自分の年齢になって自分を大切にすって、本当にあなたたちできてますかってところで。先生方もそうだし、教育でそれを教える云々の前に大人だって自分自身のことを自分を大事にしていなくて、伝わらないというか。よくシャンプンターの法則とかいいますけど。私結構スピリチュアルな話がすごく好きで、息詰まるとそっちの方に、心のこととか勉強するようになって、子育てして初めてぶつかって、まず自分なんだろうなと。まずママが笑顔でいることだったり、結局現実っていうのは自分の心の繁栄だって考え方があると思うんですけど。自分が満たされてないとやっぱり感謝なんて湧いてこないし、絶対そうなんです。本当の本当に自分が満たしたときに、周りに感謝が湧いてきたり、自分を認めてあげているからこそ、他の人のことも認められるってあるんで。それが高校生だった時に自分がどうだったかっていうと、やっぱり教育の影響も受けていたし。そのたびというものを大人になってもむしろ、みなさんやっていくものだと思うんですね。自分を大切にできてますか、みなさんはって。私はそこずっと向き合っているんで。自分が満たされて、子育て世代の大人たちがそうならいけば、子どもたちはその背中を見るというか。そういう風になっていると思うんですね。やっぱ、自分が変わると実際子どもたちものびのびしますんですよ。子どもにどうしようじゃなくて。私が私を整えることで、子どもたちは勝手に、子どもたちというか周りの関わっている人たちみんなが変わるんですよ。そういうのはあるんじゃないかなと思っています。

#### 会長

はい、貴重な体験ありがとうございました。時間もございませんので、その辺で問題提起とともにひとつの議論の場となったかと思えます。これをもっともっと来年度からの施策等の中で反映していくと考えます。他にございますか。ぜひということがあれば遠慮なく。それでは、次の議題と行きますがよろしいですか。

#### 委員

ごめんなさい、ちょっと今の話題とはずれるんですけど、いろんなレポートを拝見していて、1個だけこれは具体的にみんな何をイメージしているのかなって、よくわからなかったものが。未就学児の親の中の回答に、自由に遊べる場所を整備してほしいっていうのが、無料で使えるところっていうのが回答がたくさんある。で、小学生の保護者の回答にも、公園を整備してほしいっていうのがあるんですけど、結構日野は公園が多いと思うんですね。僕の職場の近くには、多摩平第一公園っていう大きい公園があるんですけど、結構整備されているんですけど。昼間によく行くんですけど、昼間だからっていうのがあるのかもしれませんが、誰もいないんですよ。本当に誰もいないんですよ、ゲートボールですらやっていないって感じなんですけど。そういうのがある意味実態で。それをそれ以上整備してくれっていうのは、何を期待しているんだろうなって

というのが、ちょっと気になるところの1つあります。あとは、無料で遊べるところとか、そういう整備してほしい系のシリーズですよ。というのは、具体的にどういうことをいっているのかちょっと読めないなっていう。確かに遊具が一時ケガするからっていうことで撤退させちゃったっていうのがあって、それを復活させてほしいっていうことだったらわかるんですけど。それ以上なにを求めるのかっていうのが、ちょっとわからないのですが。

#### 会長

どなたか、こんな風についているのがありますか。

#### 委員

深いですよ。遊び場やってもよく話になるんですけども、公園をやっている人たちも、人が来ない期間を実はこれは全国的に公園を作っている人達も思っているらしいんですよ。これは私見ですけども、やっぱりまず1つは子どもだけで安心して、公園ですよ、子どもだけで親が安心して遊んできていいよって言えない世の中になってきているんじゃないかって、もうなってるんじゃないかっていうことの現れの1つだと思いますね。あの空き地すらない。昔は誰も親にも言わなくても、子どもだけで群れて空き地で。だから今なら公園あるじゃないって。だからそれは子どもが忙しいっていうのもあるし、さっき言っていたようにどこか行ったら知らない人がいるんだからみたいな話が蔓延して、地域ってそんな歩いているとすぐに殺されたりするくらい危ないところですかって思うけど、それくらいの脅しを安全安心のためと言いながら、すごい子どもたちを脅してますよね。悪い意味で。良い意味では守っているって言えるかもしれないけど、悪い意味では脅してると思います。不安感を植え付けていることになるんです。だから、そういう議論はすごく深いと思って、そういう中でじゃあ何を、どういうことをしなければいけないのっていう議論を、すごく大事な問いかけをしていただいているなって思いますけど。やっぱり、物理的な環境の整備よりも、人の心がだんだんそうやって遊べないような世の中になって、結局弱いところに行く、子どもたちから遊ぶ時間と場所を奪っているみたいなところにつながっているんじゃないかと。

#### 委員

いいですか。極論さっきの話じゃないですけど、親が何を求めているかっていうと、結局安全面、セキュリティって話になるんですね。たぶんこれは現実的な話じゃないかもしれませんが、子どもしか入れないパスカードがピッてできる公園が1番、親は納得というか求めているんでしょうけども。実はこの間、保育園の方の全体の意見を保育課の方にご提出させていただいて、そのときに回答していただいた、確かになるほどそうかなって思ったことがあって。1番のこちらの要望はやっぱり、セキュリティの問題だったんですね。民間の保育園に比べると、公立の保育園って少しセキュリティ度が低いというか。民間はピッてやらないと入れないようなところが多くなってらるんだけど、公立はそれができていないので、そういう風にしてほしいって要望を出させていただいて。その時の回答としていただいた、回答というか私見というか、そういうところって閉じられているので、1回そこに誰か変な人が入っちゃうと外から全然見えないから逆に危ないんだよっていうお話をいただいて、確かにそうだなってすごく感じたんですね。そこに、そういう視点で親の人たちって見れなくて。今、委員がおっしゃられたように、親がどちらかという子どもを、仕事しているとかも含めて、あまり見てないというか、見れないので子どもだけで行って安心できるってなると、そういうセキュリティ面というところになっちゃうのかなって気はしてるんですけども。本当にそれがはたして、正解なのかというか、そんなに私個人的には全然必要ないというか、今で十分な公園がたくさんあるし遊び場もいっぱいあるし。これは日野市だけでなく、いろんな自治体すごく公園が整備されていますし、その中でやっぱりニーズというか、一部の方なのかわからないですけど、親が求めていることと実際の現状とのギャップが生まれてるんじゃないかなとすごく感じてます。

## 会長

はい、貴重なお話ありがとうございます。

## 委員

そこで手前味噌で大変恐縮ですけど、なので我々プレーパークをやっているというのがありますね。まあ、世の中に必要だと思うから。子どもが無料で、自分の足で行ける場所で、のびのびと遊べる場がない。それは公園があるだけじゃ、残念ながら今の世の中そうになっていないので、プレーパークのような形で、見守っている大人もなんとなくいながら、でも子どもが自由にそこでのびのびできてしかも、群れもできるみたいな。それが我々も始めましたし、自主的に仲間が何人か始めたりして、やっぱり求めているからだと思うんですね。それで草の根的に広がっていると思うんですよ。一つの会の姿がそれであって、でもじゃあそれですべての子が救われるかというと、すべてが打開できるわけではないと思うんです。もう一つの、放課後の過ごし方の議論につながるかなと思うんですけど。一つの会だけじゃなくいろいろなあるかなって。

## 委員

すごく理想的で実現するのはものすごく大変だと思いますけど、今やっている「ひのっち」の活動場所が、学校の敷地内じゃなくて地域の中の公園で似たような映像が出てくるとまたちょっと流れが変わってくると思うんですよ。それはセキュリティの立場からするとすさまじい難しい話だと思いますけど。

## 会長

ボランティアとか、そういうことができる大人が大勢いればね。そういったら身も蓋もないんだけど。とにかくまた次の時にお考えいただきたいと思います。行政も含めて。それでは、次の議題に。ちょっと時間をとりましたが。支援事業計画策定スケジュールについてということで、よろしいですか。

### (2. 審議事項 (2) 日野市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて)

#### 委託事業者

スケジュールの方の説明に入らせていただく前に、ちょっと若干絡むこととしまして、先ほどのご意見の中で、自分を大切にしますかという設問の話があったかと思います。この回答結果を見ていただきますと、「している」というところが最も高いですけども、次に高いのが「わからない」という回答結果、ここが4割近くあるわけでございます。この「わからない」という回答結果をしている子どもたちがどういう子どもたちなのかというところの分析っていうところを今後していけるのではないかなと思います。例えば自分自身をどう思っているのか。例えば、家庭との家族との付き合いをどうしているのかとか。友達との付き合い方だとか。こういったところがこのデータをもとにクロス分析というのがまだまだこれからやることができます。一点この報告書で取りまとめをするということになりますが、来年度の検討の段階では必要に応じてクロス分析もしていけますので、問題課題というものを今後さらに掘り下げることができるのではないかなと思います。そういったところをもとにスケジュールということで、資料2をみていただきますと、第1回目の支援会議が6月末の時点で開催されます。その時点では、次期計画の策定及び目次構成という粗々のどういったものを作っていくのかというところを示しながら、次期計画策定に向けた課題整理があります。この中で本日のいろいろご意見いただいたところをもう少し掘り下げていく形になるのではないかなと思います。この課題整理を受けて、基本理念というところの骨組みを検討したりだとか、今回もう一つこのアンケート調査の役割としまして、ニーズ量、量の見込みとありますのでその部分の報告を第1回目の支援会議で盛りだくさんとなりますがこのあたりを6月に開催する形になります。さらにこの第1回目の支援会議では、今現在報告

させてもらっているのはアンケート調査結果を報告させてもらっています。市民アンケート調査です。今もいろいろとご意見出ましたが、市民の方からこういったご意見がでましたが実際では行政の方ではすでに取り組んでいる事があるかと思えます。そういったところを市民の方々がご存じないというところもあるかと思えます。そういった行政の方ですすでに取り組んでいるところ、市民のアンケート調査、これらを合わせて問題課題として整理する必要があるかと思えますので、これを第1回目の会議で開きながら、第2回目の会議の方では、それらをもとに次期計画の骨子というところを8月に開催します。この骨子という骨組みを固めて、その骨組みに基づく施策検討ということで、第3回、第4回、第5回で検討していくという形になります。この5回まで検討したもので、この計画素案というものを固めてパブリックコメントという形でホームページ等を通じて、多くの市民の方にご意見をいただいて、第6回目の支援会議ということで、2月に開催して計画策定をしていく形になります。非常にタイトなスケジュールになりますが、概ねこのスケジュールの方で議論の方を進めていきたいと思えますので、それらの議論ができるように資料提供の方をさせていただきたいと思えます。以上で終わります。

#### 会長

ご説明ということで、これは質問等ありますか。もちろん、これは行政と一緒に考えて作っている案を委託業者の方からおっしゃっていただきましたが、事務局として補足はありますか。よろしいですか。では、そういうことで来年からまた携わっていただける方はよろしく願います。それでは、3番目の緊急1歳児における受入事業について、事務局から願います。

#### (2. 審議事項 (3) 日野市緊急1歳児受入事業について)

#### 事務局

それでは、日野市緊急1歳児受入事業についてご説明いたします。お手元に配布してあります、資料3に沿って説明いたします。座ったまま説明させていただきます。

事業概要ですが、当事業は、新規に開設した認可保育所において発生する空き定員や余裕スペース等を有効に活用することで、特に待機の多い1歳児に対する保育需要に対応し、待機児童の解消へ繋げることを目的としています。

待機児童となっている1歳児が対象となります。

対象施設は、開設後3年以内の認可保育所が条件となっており、資料中段に記載した5園から実施の意向がありました。

事業概要ですが、保育日は、祝日・年末年始の(12/29～1/3)を除く月～金曜日、土曜日の保育は実施しません。

保育時間は、各保育園で設定する基本時間の(11時間)内となり、園により延長保育が可能です。

利用期間は、平成31年4月1日～平成32年3月31日までの1年間のみとなります。このうち、(仮称)わらべ日野市役所東保育園は5月開設となりますので、5月～3月の11ヶ月となります。

利用料は1月当たり21,000円、その他延長保育料などを予定しております。生活保護世帯、区市町村住民税非課税世帯は、申請により利用料は無料となります。

今後のスケジュールですが、2月28日に、31年4月入所2次選考結果通知に合わせ、案内及び申込書を発送します。3月1～11日の間に、各園にて申込受付。12日に各園で一斉に決定し、施設から直接内定者へ連絡がいきます。中旬頃に各園で面接及び健康診断が実施され、4月1日から、利用開始となります。説明は以上です。

#### 会長

今のご説明で何かご質問等はございますか。

#### 委員

単純に、ちょっと伺いたいんですけども。待機児童となっている1歳児というのは、そういった対象というのは何人くらいいるか、おおよその数字はつかんでいらっしゃるのですか。

**事務局**

ただいま利用調整中のため、正確な数字というところまではまだつかめていない状況でございます。

**委員**

見込みはまだ全然わからないのですか。

**事務局**

そうですね。

**会長**

その結果がわかって落ち漏れた場合にこういうところになってことですね。

**事務局**

現在、利用調整は続いておりますが、保留となった方に対して、この事業の案内の方をしようと思っております。

**会長**

当然広報を含めて開示するわけでしょうから。

**委員**

情報をもう少し教えてください。たぶんぎりぎりまでいろいろな対応をしてくださる一部だと思うんですけども、この受入数が2名とか3名とか1名とか受け入れられるというのは、1歳児のところのクラスの面積であるとか先生であるとかというのは決まっていると思うんです。そこが空いているというわけではなくて、他の年齢のところ为空いていてそれを使うというのか、どうやって考えればいいのかと思う。そこをちょっと教えてください。

**事務局**

対象施設に開設後3年以内の認可保育所と書いてありますが、だいたいそのくらいの施設というのは3、4、5歳というのはほとんど定員が埋まっていない状況があります。そういったところのスペース、そして保育士を活用して可能な限りで受け入れられる人数ということで、各施設ご回答いただいている状況になります。

**委員**

そうですね。5歳児のクラスのところで1人を見るときかそういうわけではないですよね。なので、弾力化と同じような感じなんですかね。それとも弾力化よりももうちょっと受け入れてもらっているのでしょうか。

**事務局**

弾力とはまた別事業なので、これは東京都の新規の補助事業になってます。

**会長**

はい、よろしいですか。それでは、審議事項を以上で終わりにして、報告事項の方に参りたいと思います。それでは、学童クラブのことですね、事務局の方からお願いいたします。

### (3. 報告事項 (1) 学童クラブ民間活力の導入等に関する検討会について)

#### 事務局

それでは、報告事項(1)学童クラブ民間活力の導入等に関する検討会について、ご説明いたします。資料4をご覧ください。

1の表にありますように、学童クラブの民間活力の導入等に関する検討会につきましては、平成30年度、4回開催いたしました。ここで、1「学童クラブ民間活力の導入に関する検討会」となっていますが、正式名称は民間活力の導入等に関する検討会で、「等」が入ります。民間活力導入だけでなく学童クラブに関する様々な課題について検討する場ということでございます。申し訳ございませんが修正をお願いいたします。

とは申しましても、平成30年度の検討会では、4回の会議を通じ、平成31年度の学童クラブへの民間活力導入に向けての進捗状況や平成32年度の民間活力導入をどの様に進めていくかといった部分の、検討であったり、ご意見をいただいたといったところが主な内容でございます。また、第1回の議題に、「延長育成費の改定(案)について」、とございますが、平成31年度 民営化する学童クラブでは、土曜日も含め、午後7時までの延長育成を行うことから、学童クラブ費本体ではなく、拡大する延長育成に係る延長育成費について、改定案をお示しし、ご意見をいただいております。

改定の内容としましては、2の「平成31年度の延長育成費の改定」にありますように、これまで午後5時45分から午後6時30分までの延長育成費として月額1,500円をご負担いただいていたのですが、午後7時まで利用される場合は、1,000円加算の2,500円とするものでございます。なお、この件につきましては、昨年12月の市議会に、条例改正案を上程し可決いただいております。平成31年4月から適用となります。

また、3の「平成32年度民間活力の導入の概要」にございますように、4回の検討会で保護者の方々からもご意見をいただきながら、平成32年度の民営化施設について検討し、現在、五小学童クラブを対象に作業を進めていく方針となっております。

また、資料に記載はございませんが、2月13日の平成30年度最後の検討会では、メンバーとなっておられる日野市学童保育連絡協議会の方々から、学童クラブ児童の保護者と行政が、同じ方向を向いて、意見交換や議論ができるこの様な場を、学童クラブ事業をより良いものにしていくためにも、今後も継続していきたいといったご意見を多くいただきました。また、私共もそうしていきたいと考えております。説明は以上になります。

#### 会長

ありがとうございました。報告事項ということで、すでに改定も決まっているとありますが、なにかご意見ご質問はありますか。

#### 委員

初歩的な質問なんですけれども、拡大の7時まで預かるというのは、小学校の低学年が通うところだと思いますけど、この7時に学童が終わってそこから自分たちで家に帰ってくるっていうことになるんですか。

#### 事務局

延長育成の場合には、保護者のお迎えがあります。

#### 委員

ありがとうございます。勉強不足で申し訳ございません。

会長

よろしいですかね。それではその他でございますが、事務局から何かございますか。

事務局

その他ということですが、事務局の方からは特にご用意はしていませんが、今回が今期の最後となりますので、もしお時間がございましたら、後程事務連絡はさせていただきますけれども、ぜひ委員の皆さまにご意見ですとかご感想をいただくとありがたいかなと思います。

会長

そうですか。それでは先に事務連絡をお願いいたします。

事務局

それでは、事務連絡だけ先にさせていただきます。先ほども申し上げました通り今回で今期の任期は終了ということで、次年度の会議につきましては先ほどスケジュールでご案内いたしましたけれども、少し間が空きます。各団体のみなさまにおかれましては、改めて委員の選出の依頼の方をさせていただきたいと考えております。委員の交代が見込まれる団体の皆さまにはぜひこれまでの会議の引継ぎ等をお願いできればと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。事務局からは以上になります。

会長

事務報告を先にしていただきました。それでは次年度もやっていただける方もおられるかと思いますが、本日が今期最後の会議となりますので、お一人ずつ感想などいただければと思います。

(※各委員より一言ずつ)

会長

ありがとうございました。行政の方はよろしいですか。また来年もあるでしょうし、セッションも変わらないというのもあるでしょう。それでは、ちょうど時間になりました。本当に皆さまからの言葉に感謝しております。日野市はとっても良くやっておられます。みなさんのご協力がないと実際にはできないわけですから、行政の方もお仕事とはいえ、よろしくをお願いいたします。以上を持ちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。